イラン人の王国

4 王国分立後、一時期を除けば、オリエントを統一し続けたのはイラン人であった。まず前6世紀半ばにアケ メネス朝が出て、途中のギリシア系王国を経て、前3世紀半ばにパルティアが、そして3世紀にササン朝が出 た。東西の要衝をおさえたイラン人の王国は、その文化を西方では地中海世界に、東方では日本にまで伝えた。

○大帝国の登場

●オリエントの再統一

前6世紀半ば、	イラン(ペルシア)人の ^{(''}	
(2)	を興し、メディア・リディフ	アを滅ぼした。
⇒前 539 年、(1)は新バビロニアを滅ぼし、ユダヤ	ア人を捕囚から解放し
	\downarrow	
3代国王(3)	は、西はエーゲ液	毎北岸に、
東はインダス川	に至る大帝国を建設し、オリエン	トを再統一した。



アケメネス朝ペルシア

●ダレイオス1世の施策

く中央集権化>

各州に(4) と呼ばれる知事を置いて全国を統治し、 (4) の監察に「王の目」「王の耳」と呼ばれる役人を巡回

<財政の基礎固め>

金貨・銀貨の発行、税制の整理、フェニキア人の海上交易の保護

<国道と駅伝制>

前5世紀前半 (8)

都市(5)	を起点とした国道「⑹	」を敷設
♦(7)	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・・・・ 投を始めた祭祀用の首都



図2 ダレイオス1世

●アケメネス朝のその後

13.0 [2.75]	
…アケメネス朝が、ギリシアの諸ポリス	に敗れた戦い
\downarrow	
前 333 年、イッソスの戦い	
…アケメネス朝の王ダレイオス3世が、	
マケドニアのアレクサンドロス大王に	敗れた戦い
\downarrow	
前 330 年、 ⁽⁹⁾	に征服され



図3 イッソスの戦い (左:アレクサンドロス大王/右:ダレイオス3世)

•アケメネス朝の文化

文字:楔形文字を表音化したペルシア文字 宗教:(10) (拝火教)

◇(10) …世界は善神と悪神の闘争の場とし、最終的に善神が勝つと信仰

…火を清浄なるものとして神聖視



○東西交易の要衝

パルティア王国

アレクサンドロス大王の死後、大王が征服したアジアの領土には、 ギリシア系王朝(11) が開かれた。 前3世紀、(11) から自立したギリシア人が(12) を建てた。 →同時期に、イラン人の族長アルサケスがカスピ海東南部に (中国名:(14)) を建てた。 ⇒前2世紀半ば、(13) は領域をイランからメソポタミアまで広げ、 図5 パルティア王国(太線:交易路) を首都とし、東西交易を独占した。

ササン朝ペルシア

紀元3世紀、イラン人アルダシール1世が、 パルティアを倒して(16) ___を建国した。 ⇒(16) は、⁽¹⁷⁾ を首都とし、 また、⁽¹⁸⁾ を国教に定めた。 2代国王(19) は、シリアにてローマ軍を破り、 ローマ皇帝(20) を捕虜とした。 6世紀、国王(21) はトルコ系遊牧民(22) と結び、 中央アジアの遊牧民(23) を滅ぼした。 ⇒さらにビザンツ帝国との戦いも優勢に進めた。 642 年、(24) …アラブ人のイスラーム軍に大破し、(16)の滅亡に繋がった戦い



図6 降伏したウァレリアヌス(左) *シャープール1世(右)



○イラン文明

●ササン朝の2つの宗教

<ゾロアスター教(国教)> ホスロー1世の時代に、教典 ^{『(25)} 』が集大成





図9 獅子狩文錦

<マニ教>

ゾロアスター教・仏教・キリスト教を融合した⁽²⁶⁾ が成立 →国内では異端視されたが、北アフリカや中央アジア、唐代の中国に伝播 ⇒アルビジョワ派と呼ばれるキリスト教異端派にも影響

●ササン朝美術

技術・様式が東西に伝播し、東方では中国を経て次の作品が日本に伝わった。

- ①漆胡瓶…正倉院所蔵の、典型的なササン朝様式の工芸品(水差し)
- ②獅子狩文錦…法隆寺所蔵の、ササン朝美術の影響を受けた唐代の織物作品